

# 京橋の印刷

10月15日 1986・No.65

東京都印刷工業組合京橋支部  
〒104 東京都中央区新富1-16-8  
日本印刷会館3F 電話 552-1855

近藤正弥  
編集 田島弘  
柴田博司

作者紹介 松原友規(二八八八—一九八三)明治二十一年松江市に生る。四歳より筆を持ち、谷文晁(たにぶんちよう)および文晁の弟子で曾祖父の松文忠(松江藩主・松平不昧公の絵師)の画稿の模写を始め、次第に写生に移ってゆく。二十二歳頃上京、一時川合玉堂に師事、本郷(岡田三郎助)研究所にてデッサン習得。己れの理念に基き、大自然と古典を師として、写生に没頭。大正中頃より昭和十二年まで、ほぼ毎年後援者による企画、石原求龍堂主催などにより個展開催。大正十三年から昭和二十年まで短歌誌「潮音」に「太田水穂主宰」の表紙画を描く。昭和五十五年(九十一歳)東京セントラル絵画館にて個展開催。昭和五十八年五月六日没。享年九十五歳。昭和六十一年十一月十八日—二十三日、東京セントラル絵画館で遺作展開催予定。



「野 菊」

## 巻頭言

円高による不況感がジワリ ジワリと押し寄せてきております。すでに輸出産業の中には赤字出血輸出をいつまでも続けて行く訳にも行かず、内需へ転換する企業もかなり多いと聞いています。一方通産省は八月末に、日本の産業構造を国際協調型に変えていく「産業構造調整策」の骨格をまとめました。それによりまず、要点は国際競争力を失なった企業が新分野へ転出するための資金援助です。どの産業を指定するかどうか決めていませんが、いずれにしましても我々印刷業界にとつても眼を離すことの出来ない時代が刻々と迫っていると思います。

また東京都の発表した世帯数の予測調査によりますと、昭和七十五年には高齢化社会が進み六十五歳以上の世帯数は六十年に比べ三十万世帯増え六十五歳以上の世帯数は六世帯に一世帯になると報告されています。避けて通れない高齢化社会を迎えてどう対応して行くべきかも今後の課題の一つであると考えます。

新執行部発足以来みなさんのご協力によりようやくどういことが大事でどういことをしなければならぬか概略わかってきました。尚一層の努力が必要と思っております。

編集委員 近藤 正弥

# 第四回中央区工業文化展開催にあたり

—わが街・いま・あした—

東京都印刷工業組合京橋支部長

小 山 英 美

目まぐるしい技術革新と、需要構造の変化、景気の冷え込みによる印刷業界をとりまく環境は厳しく難しいものがあります。また、京橋地域全体が、大川端再開発計画を始め、オフィスビル需要の地域開発に伴い土地の移譲が行われ、他方地価高騰による土地有効利用の視点から種々と問題提起が支部に寄せられており、業界印刷人の連帯の問題としてこれらの事柄にも英知を集め対応をしてゆかなければと痛感するこの頃です。

中央区ではかねてから印刷関連産業を地場産業として、振興育成のための諸施策を積極的に推進されておりますが、業界としても今後なお一層区行政との連繫を深めてゆくことがより大切であると改めて思う次第です。

今年も、「わが街・いま・あした」のテーマのもとに、中央区と、中央区工業団体連合会共催の「中央区工業文化展」が、十月二十三日(木)から六日間に亘って日本橋高島屋で開催されます。

近年オペティクス及びエレクトロニクスによる技術革新と共に目ざましい変貌発展を遂げ、現代の情報産業の一翼をになう「印刷」の重要性と、将来性ある産業の姿を都民・区民の皆様始め特に地域青少年諸君に親しく紹介申し上げ、この工業文化展が多くの人達の「印刷」との触れあいの場となり、深いご理解とご認識をいただければと心から願っております。皆様のご来場をお待ちしております。

## 中央区工業文化展 出展内容

期日 10月23日(木)～10月28日(火)

場所 日本橋高島屋8階催場

### 印刷工業コーナー

○コンパートII東印工組・印機貿共同開発、文章入力・編集・組版処理・校正出力を一本化した文章作成機。

○ダイヤファインII多彩なカラー画像も同時処

理する、画像処理装置。

○メリカ5600、ハマダプレリユード、ハマダ662CD  
II各種製版システム

○GTOV52II印機貿のハイデル4色機、ダイナファインで出力した物を印刷。

○サイテックスII日本サイテックス(株)、電子カラー製版システムのモデル。

○印刷のあゆみ、版式パネルII東印工組作成。  
○印刷PRビデオ放映II東印工組作成。

### 製本工業コーナー

○版画工房II伊東深水の絵の製作・販売。

○和本教室IIだれにでも出来る和本の作り方。  
○マーブル付け実演II帳簿類の小口装飾。

○箔押し実演II年賀用絵柄のハガキへの箔押し。

### 機械工業コーナー

○機械プラントモデルII月島機械(株)提供。

### 食品工業コーナー

○文明堂、知床鮎、マルシンフーズ等展示即売

### 特別出展コーナー

○朝日新聞社ネルソンII文字組版、編集装置

### その他

○事務用品の製本実演・配布、便箋、原稿用紙

○印刷のメデアII東印工組作成、3,000部配布。

○東印工組京橋支部支部報「京橋の印刷」配布。  
○小学生向けおみやげII下敷き、シール等。

東印工組厚生委員会日より

加入しよう!!

共済制度は会社の福利厚生に役立ちます

加入促進キャンペーン実施中!!

平素より厚生事業の運営につきましては、何かと協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私共（鈴木・小倉）が、厚生委員として本部の委員会に出席しておりますが、当京橋支部は組合員皆様のご理解と、永年に亘る諸先輩委員の方々の努力の結果、今回キャンペーンの対象である、生命共済、経営者退職功労金制度の加入率は、他21支部に比べ非常に高く、私共としても委員会に出席しても鼻の高い思いをしております。とはいえ、未だご契約をいただいている事業所も多く、既にご契約をいただいている事業所につきましても従業員の方々のご加入もれないよう見直しのうえ追加加入の程宜しくお願い申し上げます。

因みに六十年年度生命共済給付金（死亡・事故入院）は、六七名五千五百円と、いざという不測の事態時にお役に立ち大変喜ばれております。

なお、今回当支部担当の住友生命の強力なるバックアップを得て九地区に営業部員を一名ないし二名配していただき、お願いに何合わせます

ので、よろしくお引き回し下さい。

”もう一つの保障“生命共済制度

生命共済は、月に七五〇円の掛金で死亡保険金百万円、不慮の事故等により死亡したときには二百万円、不慮の事故等により死亡したときには二百万円の保障が得られ、災害で五日以上入院したときには一日千五百円が支払われます。

この制度は全国で四千六百社、契約高四百八十七億の加入があり、安定した運営を続けており、毎年剰余金を配当金として加入者に還元しており、また、手数料は支部にも一部還付金として還元され、支部財政にも大きく寄与しています。正に一石二鳥の制度です。

◎保険金は最高一千万円の保障です

◎無診査で加入

◎業務上、業務外を問わず二十四時間保障

◎掛金は年令に関係なく一律

◎掛金には税法上の特典

こくみん共済などの掛金は、個人加入保険であるために、所得控除対象ですが、この制

度は、団体加入保険のために、損金または必要経費処理ができます。

◎社会情勢に合わせた保障額

契約は一年更新ですから、社会情勢に合わせて、必要な保障額を自由に選べます。

低金利時代にいまこそ

経営者退職功労金制度

この制度は、永年企業に貢献された事業主、役員、幹部社員のために資金を積み立て、退職功労金とし準備するものです。また、老後の豊かな生活を確保するために、個人加入にも利用できます。月額一口一万円、二十口まで加入できます。

給付内容は、①一時金支給 ②年金支給（加入十年以上） ③終身保険の三通りから選択できます。この制度は簡単に申せば、昨今の低金利時代にあつて大変高利廻りの金融商品とも考えられます。

嬉しいことに途中で掛金の増減ができ、万一脱退のときでも年数により異なりますが掛金十配当金が戻りますので安心です。

全国で二千七百口、東印工組で九百四十七口積立金実績は十二億円を突破し、確実に運用されております。

なお、この制度に対しては、個々の年令、コース等で担当生保営業部員が設計書を作成してくれまますので、豊かな老後の設計に魅力ある本制度に加入することをお勧めします（小倉記）

# 東印工組加入増強運動によせて

## 特別組合員制度について

組織委員 田 島 弘

東京都印刷工業組合を始めとして、企業協同組合、商工業組合等に於ける組合員の著しい減少が見られ、解散の己むなきに立至った組合もあるやに仄聞する。

組合離れ現象は、ひとり中小企業団体ばかりではなく、満ち足りた豊かな環境に育った新人類の意識は変革し、日教組・国鉄等々に於いても50%を維持するのがやつの状態で、組合活動に情熱を燃やす世代は益々減少し、自己中心的な意識は強まりつゝあるように見受けられる。さて、昭和61年6月10日・第一回「組織委員会」が開かれ、山下委員長より、今後の委員会の運営方針について次のように挨拶があった。

「組織対策特別委員会就任以来、今年で三年目であるが、前期までは委員会の総務的事務に時間をかけすぎたきらいがあった。今期よりは組織委員会として、常設委員会となったので、事業の内容を区切り、組織拡充を推進して行きたい。

また行政区別支部組織再編成の促進に、力を入れることを述べ、当組合の組織状況と商工会

議所の調査を引いて説明し、当業界においても組織を強固にするために、組合員を過半数以上で占めなければならない——と述べた。

なる程、表を見る限り、中央区内（日本橋支部・京橋支部）の構成比は43%であり、東京都全体を見ると30・8%とまことに少ない。勿論この工場数の中には「東軽工」の組合員も含まれるので、その比率はもう少し高くなるかも知れないが、区商工課、法人会等から得た資料によって京橋支部を顧みても、大体同じようなことが言えると思う。

また、組合脱退の原因を見ると、後述するように、組合に入ってもメリットがない。事業不振なので、等々が挙げられるが、過去をみると「京橋の印刷史」の中に、昭和三年の記載で、

### 一度失業すると再就職困難

「歳の瀬や水の流れと人の身は」とは、其角の句であろうが、業界は不景気で、質の流れと人の身が案じられると、多くの京橋支部員は共感していた。

行政区別組合員数、工場数対比

地域別	60/4 東印工組	工場数	地域別	60/4 東印工組	工場数	地域別	60/4 東印工組	工場数
千代田	175	470	目 黒	38	114	板 橋	128	646
中 央	355	807	大 田	78	302	練 馬	42	152
港	177	450	世田谷	53	163	足 立	59	243
新 宿	235	683	渋谷	36	167	葛 飾	23	222
文 京	252	686	中 野	58	165	江戸川	40	182
台 東	207	548	杉 並	65	141	都 下	91	535
墨 田	148	436	豊 島	114	347			
江 東	229	778	北	77	336			
品 川	87	265	荒 川	86	418	計	2,853	9,256

来年は来年はと、その来年は、景気が直るだろうとの希望が、段々と不景気が深まるばかりで、今年ぐらい不景気の年はないとこぼしている。

何時になったら景気が直るか、これはお釈迦さまでも明言できない。

銀行には休業されて支払停止、そのうえ区画整理で悩まされ、業者は泣面に蜂とはこのことだとの叫びをきかされた。

昭和三年は、前年からの不景気続きで、業界の不況は深刻だった。従業員などは一度失業すると、三、四カ月の失業苦を味あうという悲惨な年であった。

お互いに値段のせり合をやらなければ、苦しまなくてもすむし、社員にも工場員にも、出来るだけのがしてやれるのだが、今の有様では駄目だ、少しは業者も考える必要があると、組合情報は書いていた。

#### 得意先のムリを甘受

昭和四年の新春を迎えた。景気は少しも回復しないばかりか、数年来、円本全集物と続出と五十銭雑誌の頻出の余波を受けて、業界の一部を除いては、印刷代金の低廉を嘆きつゝ、涙をのんで得意先のムリを甘受する状態だった。

当時の刷代をみると、菊版もので頁八朱である。頁八朱といえば、菊全版の通しが一厘二毛八朱である。物によっては、鉛板にメッキを施し、その代金も負担させられた。その上に支払は六十日の約束手形である。

こんな状態だから、組合員は通し値段を協定

し、無謀競争を排除して、暴圧的注文者に対抗すべきだとの声を聞くが実行されなかった。

と、当時の事情が載せられているが、因みに当時の物価を現在に換算すると菊全版の一通しは六十銭八厘に匹敵しようか。

さて、現在印刷工業組合では、印刷業界の繁栄は東京印刷組合への加入からとして「組合加入のご案内」に『メリット無しなんてとんでもありません』として

1、組合に加入すると、多くの仲間と知り合いになれ、仕事の交流等も円滑になります。

2、全国一万二千社の仲間と力を合わせ、行政や他の団体に働きかけて、印刷業界を明るく未来ある産業にします。

3、日本の印刷、東京の印刷、各支部報が届けられ、労務・税務・技術・資材その他の最新情報を入手できます。

4、講習会、研修会、機械展などに参加でき、現在を正しく把握し、経営上の知識を充実することができま。

また組合認定の講習により印刷営業士、印刷営業管理士、印刷生産士等の資格が得られます。

5、法律、労務、税務、経営、技術について特別顧問などから相談を受けられ、信用調査の利用ができます。

6、各種の技能検定が受けられます。

7、労災や不慮の事故などに備えて、全国生命共済、印刷機械共済などの制度が利用できます。

8、需要開発、新技術開発、人材養成など各

種の経営に役立つ事業が利用できます。

9、中小企業金融公庫や、商工組合中央金庫など、政府系金融機関からの融資や、組合の小口融資の制度が利用できます。

10、組合の幹旋物資や、家電製品が市価より安く買えます。

と、十項目をあげて組合加入のメリットをあげている。

さて、京橋支部内を見ると、昭和58年2月より61年5月の二カ年の間に35社が脱退している。その理由を見ると、

(1) 移転の為7社、(2) 後継者不在の為6社、(3) 規模縮少4社、(4) 倒産3社、(5) 解散4社、(6) 事業不振4社、(7) メリットが無い3社、(8) 支部移動2社、(9) その他2社となり、倒産、解散、事業不振の合計は11社を数えており、トップの移転7社の中には、他地区への会社の移転により、他支部に移籍という社が2社あるが、5社については他地区に移動したばかりで、移籍していない。

本題を元に戻して、第一回組織委員会に於て、浅草支部委員より「組織増強について、製版業者等の他の業種の会社も、希望があれば認められるか」との質問に対して山下委員長は、

「印刷業における印刷会社の実態は、年々デザイン業等に代表される専門業種に変化してきている。ここで加入希望の企業を拒めば、加入増強の足並が乱れるし、組合活動に有益な企業意識をもった会社を拒むことになる。」

と答え、豊島支部委員の「特別組合員制度を

立案したら」との提言に対して、

— 特別組合員制度（仮称）を現在の組合の事情の中で検討して、答申を出すことが良いと考える。と答えている。

昭和58年度総代会資料によると、「組合員資格の検討に関する中間答申」として、

組合員資格については、「地区内における印刷業を営む者」等定款第九条に定められている工業組合としての性質上、印刷設備保有を資格要件とするのが当然であるが、当該条項には印刷設備保有を、その資格条件として明文化されていないため、組合員資格と、組合加入事業所の設備保有の有無との関連を、より明確化するよう、その検討が求められている。本委員会では、これらの実情を踏まえ、かつ工業組合としての見地に立脚し、組織、政策面から慎重に検討した結果、当面次のような基本的考え方で意見の集約をみた。

①印刷設備非保有事業所の組合加入について  
現在、当工業組合の殆んどの組合事務所において設備を保有しているが、所謂商業的色彩の強い設備非保有事業所も増加しつつある現在、今後、印刷物の生産手段および流通の変化等から企画・デザインを主体とした新しい企業形態や、営業重視型設備非保有事業所の組合加入も予測される。従って将来の料金問題や、過当競争の面など、業界課題にも配慮しつつ、当面現行定款の範囲内で、組合に加入し、業界人として協調性があるならば、これら設備非保有事業所も組合員として迎え入れるのが望ましい。

②工業組合としての当面の政策課題について  
本来、生産（製造業）工場主体の当工業組合にあって、上記の所謂商業的色彩の強い組合事業所、企画・デザインを主体とする「準組合員制度」を見直すなり、東印工組「営業部会」といった部会制を採用するといった形で、政策面からの効果ある打開策を図って行くのが望ましい。としている。が、7月24日に開かれた常任役員会で、山下委員長（常務理事）は特別組合員制度に関する件として提案し、

— 59年度の組織対策特別委員会で、商業的色彩の濃い印刷業が増加している問題に、どう対処するかということで、「組合員資格の検討に関する中間答申」で問題提起された。しかし、今日までこの問題に対する回答がなされていない。今回も組織委員会の中から、この問題に対する問いかけがあり、検討した結果、委員会全体の意向として「特別組合員制度」を提案するものである。

— 最近では、設備を廃して、営業活動に重点を置く仲間が増加している。一方でまた商業的色彩の濃い業者も依然として増加している。現在では複写機一台でも、設備とみなして、加入を認めるように、範囲を拡げて解釈しているが、定款上は生産設備のない企業は、加入を認めないということである。現在の定款の中で、生産設備のない商業的色彩の濃い企業に対して、何らかの連がりが必要とするのではないか、またあとの問題として賦課金をどうするか、簡単には導入はできなからうけれど、現

在「準組合員制度」を取り入れておくことでもあり、「特別組合員制度」を用いたらどうか。と述べたが、

1、ブローカー、あるいは広告、企画、デザイン会社まで含むか、

2、現行の定款によれば、「印刷を営む」ということで、コピー一台でも設備として加入を認めているが、特別組合員は定款上、組合員になれないことになり、中途半端ではないか、等々の意見が出され、当支部選出の長島一磨常務理事は、

— 問題は、組織拡充をどのように解釈するかにかかっている。数的な拡大だけでなく、質的な拡充を考えると、特別組合員というような相反する立場をも受け入れるということは、東印工組の組織拡充に本来的につながらない。将来はともかく、現時点では、印刷業は、工業であることに存在基盤があるのではないかと述べ、常任役員会としての考え方は、次のようになろうかと結んでいる。

- 1、定款の範疇から離れるということにならないか。
- 2、異業種を迎えてどうであろうか。
- 3、組織上このような制度ができるであろうか。

ともあれ、組織拡充は急務であり、組織委員会に与えられた問題は大きい。

因に、組織強化のため加入促進運動支部別目標数は、当京橋支部10%27社を予定している。皆様のご協力を切にお願い致します。

# 変化と持続

ドルツパ視察旅行で考えたこと

株式会社 大秀社 長島 一磨

昨年の春、ドルツパ視察旅行が京橋、日本橋両支部で企画され、私もこの一員に加わろうと決めたとき、脳裏には秘かに次の考えがあった。日本は既に経済競争のトップグループに入り、アメリカと並んで先陣を争っているが、テクノロジーの分野で外国から学ぶものが少なくなっている反面、文化、宗教、科学思想の分野では世界の中で特異な存在となっていることもまた事実である。

外国、特に古い伝統の西ヨーロッパ諸国を廻り歩いて日本の特異性を肌で感じ、外から日本を眺めることで海外旅行経験の少ない私自身のもの見方、考え方に風を通し、改めて世界中の日本をどの様に捉えるか考えなおす機会に出来たらと思った。

言葉も良く分らない上、わずか二週間では、この様な大それた事を期待するべくもないが、せめてそのような視点だけは失わないで私なりにこの機会を活用したいと考えた。この一文はドルツパ視察旅行記というより日本の風土、文化の中で人生の大半を過ごした私自身の拙い

ヨーロッパ旅行記とさせていただきます。

旅行のコースを簡単に記すと、先ずアテネから第一歩を始め、以降はローマ、フロレンス、ベニス、ルツツェルン、ユングフラウ、チューリッヒとまわり、リヒテンシュタインを通過して、ドイツにはいった。フュッセンを起点としてロマンチック街道を逆に北上、中世の名残りを留める地方中小都市を訪れ最後はフランクフルトからアムステルダムにとび北廻りで帰国した。

ヨーロッパと一口に言っても、国によって、民族によって、社会体制によって夫々に多様で、独自の文化と伝統がある。しかし日本と比べて一様に言えることは石の文化、キリスト教を土台とした思想、世界観が人々の中に脈々として生き続けていて、中世からの時間の経過の連続性を街の表情や人々の言動にはつきりとみることが出来る。日本では東京を中心とする経済圏が益々大きな比重を占め、江戸が壊れて、日々

新しいファッションを装ったビル群が生まれつつけている。

私なりに日本とヨーロッパを比べ端的に表現すれば、変化の日本に対する持続のヨーロッパとでもいえるかと思う。急激な技術革新が抵抗なく行なわれるためにはそのための社会的土壌が必要であり、変化への適応性が人々の考え方の底流になれば今の日本の経済的発展は有りえない。勿論日本人の勤勉、努力、均質、協調、頭脳が大きな力となっているとはいってもない。しかし変化への適応性がなければこれら特質も十分に生かされず、技術革新の推進力が伝統の持続力と摩擦をおこし、革新の結晶をここまで見事に昇華させることはなかったであろう。一方、ヨーロッパが経済的に日本におけるをとった原因の一つは伝統の頑なまでの固持である。アテネのアクロポリスの丘、ローマ市の中いたるところにみられる数々の遺跡、フロレンスの街並とウツファイ美術館の膨大な美術品の保存、沈みゆくベニスの石だたみの上に建つ歴史的建築物への絶え間ない修復作業、中世都市の面影をそのまま残しその中に生活するドイツ地方都市の人々、危険で放置できないまでに傾いた古いビル街で商いを営むアムステルダム商店街、それらの一つ一つにヨーロッパ文化の遺産を、経済的利害を越えて守ろうとする人々の意志が感じとれる。そして同じ意志が人々の言動にも現れている。少ない時間と貧困な言語力では理解しあえるまでのコミュニケーションは到底もてなかつたが、それでもその時々に出



民族音楽を演奏する楽団（ルツェルン）

会った人々の表情に言葉の一端に感じる事ができた。それは自分達が培ってきた文化への誇りの表情であり、それを守ろうとする強烈な意志が義務感となって潜在意識にまで入っているとおもわれる程である。ルツェルンでの夕食のひととき、民族音楽を演奏する一団の中で背筋を伸ばしてピアノに向かう老女の柔和でインテリジェンスに富んだ眼差、ウツフイ美術館で殺到する大勢の見学者をかきわけ私共一行に通路をひらいてくれた相当年配の女性案内人が示した職業意識の高さ、そして三日間に亘りロマンチック街道を走り、地方に点在する見事な教会や古城を親切に脇道にそれてまで案内してく

れたカール氏（因みに彼は現在は運転を職業として一家を支えているが、食事をとりながらの対談ではアルプスの水と低地の飲料水との因果関係についてドイツ人らしい理論を筋道を通した英語と手振りで説明してくれた）が矜持するバイエルン地方出身であることの誇り高さ、どの人々も気質は違いが伝統の保持への気概を垣間見ることが出来る。

しかし反面このような彼等の姿勢が、変化への素早い適応を遅らせ、経済的には日本におくれをとった原因となっている。

さて、世界各国間の距離がせばまり相互に密接な影響をうけながら行動しなければならぬ現状では益々相互理解が重要になってきている。しかし文化の違い、伝統の違いが日常生活での常識の違い、価値観の違いとなつてあらわれていることを考えると、めまぐるしい変化に對してすなわに順応している日本が西欧のみならず他の東洋諸国、アメリカ、中南米、北歐、東歐、アフリカ等々の国々との間に相互理解を深めることの困難さが大きな問題となつてきている。この問題を乗り切らない限り、経済的優位は近いうちに脆くも崩れるであろうし宇宙船地球号の乗員の資格を失うことにもなりかねないと思われる。経済の発展を主柱とし技術革新という変化に無定見に適応してゆくのではなく、日本文化の持統との対話が可能なレベルまで変化のスピードをおとすと共に、変化の幅と方向付けをするよう、我々自身の生活のあり方もここで

みなおさなければならぬのではないだろうか。エントロピーとエコロジーについて、石の文化と木の文化について、宗教と哲学と科学特にニューサイエンスについて、部分と全体の有機的関連性について、ストックとフロー、蓄積と循環について、再生のきかない変化について等々考えそして解決しなければならぬ問題が山積し差し迫っている。それらへの対処を経て、私共もそれぞれのフィロソフィを確立し改めて技術革新と経済発展に努める必要がある。

短かい、そしてわずか一部の地域に限られたヨーロッパ旅行ではあったがそこから得た私人的な感想を一言で言えば、変化と持続のバランスをどうとるか、世界各国のインターディペンデンシーに日本はどう具体的施策を立てるかということになる。そしてそれは日本の政府の問題であるとともに我々個人個人が、各企業が見据えなければならぬ問題であろうとおもう。

### 有機溶剤作業注意事項

#### パネル板の頒布について

このパネルは印刷工場内の壁に貼りつけておくもので、労基監督署の要請により必ず貼り付けておくようにとの事です。一枚100円、希望者は各地区長又は支部事務局迄申込み下さい。現在、労基局の抜打ち査察も行われており、15名〜20名の規模が査察対象となっております。



## ○「特別第二種工業地区内の制限緩和に関する陳情書」を中央区へ提出・陳情

8月19日(火)、小山支部長は東印工組新村理事長・同京橋支部小山支部長連名の前記陳情書を中央区横関区長、及び区議会議長へ手渡し、実情を説明して、「特別第二種工業地域」内に

### 市場移転には天災が必要か

日刊食料新聞六月十八日付コラムより転載

▼適法に商売する者達を移転させることは並み大抵でない。住み馴れた場合への執着はどなたにも通ずる人情だからだ▼このことは歴史がはっきり証明している。たとえば、日本橋魚河岸である。文明開化の波に追いつてられた日本橋魚河岸が、大正十二年十二月、築地の現在地へと引っ越し得たのは必ずしも「人の力」によるものではない。同年九月一日午前十一時五十八分の関東大震災、つまり、不可抗力な「天の力」がそもそもものきつかけであった。こてんぱんにやられた虚脱状態の日本橋魚河岸には、もはや業者らを繋ぎ止める力すらなかったということである▼ご存知「吉原」とも同じである。相州小田原の産、北条家の浪人だった庄司甚右衛門(町人名甚内)が駿河吉原の遊女渡世に味をしめ、江戸への旗上げに打って

於る作業面積150㎡を500㎡までに拡大緩和を求め、又コンピュータ関連機器、電算写植機等の設置面積を同制度適用の除外とする事を要望して、62年に用途地域の見直しが行われる際の基準変更を求めました。尚本部でも7月に都へ陳情を行い要請をしているものを各支部でも、行政区へ別々に陳情を行い強力にアピールしたものです。

出たのは慶長初期である。商才の方もなかなかだったようで、家康が関ヶ原に進発した慶長五年(一六〇〇年)には、抱えの八人の女に赤い手拭でネエさんかぶりと赤い前かけのユニフォームを着せ、鈴力森で家康にお茶を供し、関ヶ原決戦の壮途を見送るなどのソツのないところをみせている。「私はご府内で遊女渡世を致しまする甚内と申す者で...」その名をおぼえておくぞ。―幕府の公娼是認はここからきたものである▼いまの人形町あたりに店開きした娼家も、江戸の繁盛とともに目障りとなり、やがて移転しろ!!の難を受けることになる。が、これまた「人の力」ではいかんともし難く、結局は「天の力」(明暦の振袖火事一六五五)がケリをつけることになる。一面の焼野原を見るに及んで、ようやく浅草田んぼへの気になったというわけ▼神田市場の移転も地震か火事でもこなきやダメということなんでしょうかーね。

(妙竹輪)

## 「京橋の印刷」に作業交流欄を

湊地区長 中山 英 男

昭和61・62年度を担当する支部新執行部が発足し、「京橋の印刷」の編集方法も、従来と異なり広告掲載をしないことになりました。是非論はいろいろとあるでしょうが新執行部の姿勢として認めるべきことと思います。

そこで提案ですが、従来の広告掲載スペースに、支部組合員で作業交流を希望する方がおりましたら、規格寸法の中に会社内容、特長等を記入した完全版下を提出して頂き掲載したら如何でしょうか。

最近、長びく低成長下と狂気じみた都心の地価高騰、土地の買いあさり等により、廃業の方もあり、組合員増強どころか減少の状況にあります。東印工組全体の問題については次の機会に譲るとして、京橋支部の中だけでも取あえず出来ることで、組合員のメリットにつながることを実行していきましよう。

組合員の皆様は、多かれ少かれ外注をされているはずですが、京橋支部の中なら、余程特殊な物でない限りは、相互の作業交流により充足できると思います。又、この機会にアウトサイダーの下請さんに外注している場合は、是非組合に加入するよう説得して頂きたいと思っております。それが組合員増強運動の一環にもつながると思っております。「仕事は支部の中で」を合言葉に、信頼と親睦の輪を上げて行こうではありませんか。



# “これは便利” 名刺利用のワンタッチ電話

## 当支部員(株)ジャテック社が開発

アメリカのTV映画を見ていて、主人公が名刺大のカードを取り出して、電話器のアダプターに差し込むと相手が出て来る場面を見たことがある。それを見ていてずいぶん便利な時代になったと思った人も多いだろう。この自動通話システムがこの程日本でも開発され新聞や雑誌にぎわしているが、このシステムを開発したのが、京橋支部湊地区所属の株式会社ジャテック(富岡信社長)である。

現在電話をかける方法としては①ダイヤルを回す②プッシュボタンを押す③電話器に記憶させ短縮装置にセットする。の三通りがあるが、いずれも目が不自由であったり、指先が機能しなかつたりする人にとっては不便な操作法といえよう。このため、福祉関係者の間では、以前から簡易な操作法の開発を要望する声が強かった。そうした要望に応じて開発されたのがこの新システムである。

ところでこの新システムはどんな仕組みかという大きく分けて二つある。その一つはアンケートの回答用紙でおなじみのOMR(光学式マーク読み取り機)の原理と同様に、読み取りセンサーが黒か白かを認識して情報として読み

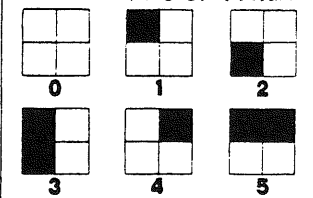
取る。もう一つは〇から九までの数字を田の字の一マスを一と二と四と八の数字で決める。この四つのマスの中を黒くすることによって一から九までの数字をセンサーが読み取ることができる仕組みである。

この四つの数字のマス黒くすることによって十六種のコードを任意に記入するようになっていたのでマーク部を名刺やカードの下に刷り込んでおけば電話番号になるというものである。この名刺をアダプターに差し込むだけで、自動的にその番号につながる位組みだ。この田の字型マークが高精度に読み取れるようになれば、バーコードシステムに比べてマークの書き込みがはるかに容易なため、自ら商品の値札作成をするような中小小売店のPOS(販売時点情報管理)などで重宝されることになる。

ダイヤルロボットともいえるこの装置が普及すれば、自社の電話番号マークを刷り込んだ名刺を「差し込むだけで呼び出せます」と売り込む会社もよう。問題はアダプターの普及である。商品名「カルラコード」(一台九万八千円)

(編集部)

カルラコードによる数字表現法



# 水交會

## 北海道ゴルフツアー顛末記

昭和52年2月5日、京橋支部新年総会が箱根湯本「富士屋ホテル」にて開催された。



和光印刷(株)小西正夫さん写す

翌六日、今は亡き第一印刷篠倉鉄郎さん、大秀社長島一磨さん、聖文社田島の三人で、仙石原ゴルフクラブでプレーを楽しんだ。当日は木陰に雪が残って寒々とした感じだったが、いざスタートしてみると風もなく、案外暖かい日で楽しくプレーできたように記憶している。

篠倉さんは、組合員の親睦を図るには、湊地区にもゴルフ会を作つて、関連業の方々とも共々に楽しくやつて行くことを提案し、当地区が隅田川の畔に立地することから蜀志に劉備の「孤の孔明有るは魚なのおの水ある如し」を引いて、水魚の交わり、水交會と名付けて、その日を第一回として発足した。

爾来、回を重ねること45回、発足時から会員の各氏も健在で益々技に磨きをかけている。

当初、催し日に雨の日が多く、嵐のために流会の憂き目にあったことも度々で、水に縁ある会名が悪いのぢやないか、改名したら等の手厳しいご意見もあったが、最近是好天にツキが廻っているようだ。

昨60年に、涼しい北海道でゴルフを楽しもうということで、有志を募つたところ、当初二組ぐらいも参加してくれ、ぼとの予定のところ、



我も我もと希望者が現われて、十二名三組を組むことができた。これは三豊社の斉藤晃さんの絶大の御骨折りのお蔭で、航空会社のツアーならいざ知らず、ゴルフ場へ何回も何回も電話し予定を立て、宿泊に至るまで、すべてのスケジュールを纏めていただいた。本当に頭の下がること、紙面をかりて厚くお礼申上げる次第。

さて本年も、昨年の好評に刺戟されてか、十六名四組を数え、昨年同様、水交會の催しとして正々堂々のコンペとなり、今年もまた斉藤晃さんにすべてをお願いし、勇躍、羽田発8時10分の東亜国内A300機に乗込み、朝食の機内食を賞味しつゝ千歳着となった。

タクシーに分乗、第一日目は札幌広島ゴルフコース西コース12時12分スタート、天気は快晴

暢々と広大なゴルフ場でのプレーを満喫した。

昨年の夕食は、「サツポロピール園」での呑み放題だったが、今年は趣向を変え「氷雪の門」の蟹料理に舌鼓を打ち、後は三々伍々、カラオケ、ラーメン横丁へと軽く流して、明日のプレーを夢みて、札幌グランドホテル泊。

二日目は昨年同様、クラークカントリークラブにて12時スタート、今日は曇り空のせいが一寸寒く感じるが、引き締って快よい、好プレーが続出し、見事、一星社印刷石川毅一さんがトータル一五三で優勝した。

第46回水交会は、グリーン・フォーム金子春雄さんにご無理を願ひ、浜野カントリークラブで開催することになった。  
(田島 弘)

# 地区だより

湊地区納涼懇親会 於 「土佐自慢」

昭和61年7月25日

七月二十五日(金)地区恒例の納涼懇親会を開催しました。今年は例年より一週間早く行ったことで案外に涼しい夏の懇親会でした。

参加者は三十名の他に地元信用組合の代表三名の三十三名、定刻六時三十分までに殆んど集り、会場の「土佐自慢」の部屋は開会前から親睦ムードです。

浅野副地区長の司会で開会になり、冒頭中山地区長の挨拶と組合の活動計画と支部新執行部のこれから二年間の行動姿勢等の話のあと、



今期本部常務理事に就任された(株)大秀社の長島社長より、一層組合活動に協力を得たいことと組合員の声を組合活動に反映させたいとの挨拶があり、文化産業信組友田次長、城北信組服部支店長の挨拶後懇親会にうつった。

いつものことで、男ばかりではむさ苦しく、色気もないので、銀座のホステスさん数名を接待役に依頼し、座を盛り上げて賑やかなる。一年に二回(新年と夏)の懇親会のせいかな、

お隣さん、お向いさんと話しがはずみ、カラオケなど出る時間がないままにお開きの時間になる(株)蓬萊屋印刷の森山さんの大メで会帰路につく、おあとは皆さん思い思いによりよくやったようです。  
(中山)

## 原稿募集

京橋の印刷はお蔭様で本号で通計六十五号となりました。本支部報は、創刊以来「支部員の手による、支部員のための支部報」という方針で製作、編集して参りました。今後もその方針でみなさんのお役に立てたいと編集員一同心がけております。そこでよりよい支部報発刊のためみなさんの原稿を募集します。みなさんの中には趣味として、短歌、俳句、詩、川柳、ずい筆などの他ご意見、ご要望等お持ちの方が多々あるかと思ひます。特に最近のように環境が一段と厳しくなつて参りますと何かと大変かと思ひますが、相互情報交換の場としてご活用できれば編集委員としましてもこれにすぐるものではありません。何卒みなさんのご投稿をお待ち申し上げます。  
編集委員一同

# 支部の動き

- 6月4日 支部報編集会議、於・支部室
  - 6月4日 顧問・相談役・参与の会、幹事会を合同開催、於・京橋会館、前号掲載。
  - 6月5日 本部支部長会、於・日本印刷会館、小山支部長出席。
  - 6月5日 斎藤氏受賞祝賀会打合せ、於・印刷会館、本部と京橋支部合同開催をする。
  - 6月5日 労働基準監督署と懇談、京橋・日本橋・千代田各支部長・本部等と打合せす。
  - 6月10日 斎藤喜徳氏受賞祝賀会、於・竹橋会館、小山支部長他多数出席、前号掲載。
  - 6月11日 中央区工団連理事會、総会、於・中央会館、小山支部長他理事出席。
  - 6月12日 部長・監査・地区長会、於・支部室
- 1、報告事項
- ・労務改善事業に係る支部文化活動補助について、1支部2万円補助。
  - ・第1回男女雇用機会均等月間の実施
  - ・抽せん付暑中はがき発売、郵政省と懇談、組合員宛周知ポスターの配布。
  - ・東京都中小企業近代化資金の申込受付、7/1、8、9/1、8、11/4、11
  - ・営業管理士合格者について  
受験者数79名中、合格者40名
  - ・有機溶剤作業主任技能講習会開催  
7/23、飯田橋セントラルプラザ
  - ・印刷営業士認定講習会開催、6/14

8/2

2、本部連絡事項

- ・組合組織及び61年度の事業運営についてオリエンテーション全国47ヶ所
  - ・支部長会の運営、その性格と位置付け
  - ・61年度各委員会委員について
  - ・有機溶剤問題に対する監督署の姿勢  
管轄3支部（千代田、日本橋、京橋）で巡回指導を実施、組合本部でも検診、測定を実施して欲しい、違反企業に是正勧告のフォローをし、何らかの措置をとる。
  - ・用途地域の見直しと「2特」に対する要望
  - ・5/15都市計画局建築指導部調査課と懇談「2特」について印刷業は特に考えてゆく。
- 3、当面する支部事業について
- ・中央区工業文化展の概要について
  - ・支部名簿作成について
  - ・「京橋の印刷」発行について
  - ・いずれも広告掲載を取り止める
  - ・新年臨時総会の開催  
2/14(土)、15(日)、箱根富士屋ホテル
  - 6月15日 中央区工団連宿泊研修旅行、於・鬼怒川温泉ホテル、京橋支部より約35名参加
  - 6月16日 本部総務委員会、於・印刷会館  
小山支部長出席。
  - 6月27日 中央区工業文化展打合せ、於・支部室、印刷関連団体実行委員初顔合せを行う。

印刷日本橋・京橋、軽印刷中央支部、製本京橋支部の各実行委員が出席初会合開く。

7月2日 京橋支部内文化展打合せ、於・支部室、児玉・石曾根・小菓の各相談役、小山支部長、荒川・佐藤・岩尾各副支部長及び京青会岸会長、武村、長田氏ら出席。

7月4日 中央厚生事業協組総務委員会、於・中央厚生事業協組ビル、小山支部長出席。

7月8日 本部総務委員会、於・印刷会館、小山支部長出席。

7月10日 部長・監査・地区長会、於・支部室

1、報告事項

- ・東京都に対する陳情について  
特に地域制限緩和、O A機器の適用除外を
- ・印刷月間の実施、印刷週間を月間に。
- ・オフセット印刷作業技能検定の実施、7/14、26、55名
- ・経営幹部研修会開催、9/9、25
- ・地場産業振興計画と教育事業の合同企画
- ・コンパルト製品発表会、7/25
- ・第20回敬老の集い開催、9/19、明治神宮
- ・第35回永年勤続従業員表彰式、9/27
- ・印刷機械共済制度加入キャンペーン実施
- ・PR展開催（地場産業振興計画委）  
9/5、9、新宿小田急デパート
- ・通産省「紙業印刷業課」改称記念懇親

会、7/15、農林年金会館、紙パ、印刷連合同

- ・東京印刷工業年金基金の加入啓蒙
- ・本部事務局機構、組合相談窓口の設置
- 2、当面する支部事業
  - ・有機溶剤使用の労基監督署の査察及び、対策講習会へ参加推進。
  - ・有機溶剤取扱の注意板頒布、一枚100円
  - ・中央区工業文化展の企画等推進
  - ・支部名簿作成について、B5縦長
  - ・昨年度実態調査未提出企業14社

7月10日 中央区工業文化展実行委員会、於・日本橋産業会館、小山支部長他出席。

7月15日 通産省紙業・印刷業課改称記念懇親会、於・農林年金会館、小山支部長出席。

7月16日 京青会納涼懇親会、於・銀座キャピタルホテル、小山支部長、岩本書記出席。

7月17日 中央区工業文化展印刷分科会、於・支部室、印刷日本橋・京橋、軽印刷中央支部にて協議を行う。

7月17日 本部署理事会、於・電気工事会館 小山支部長他理事出席。

7月18日 支部新年臨時総会会場下見、於・湯本富士屋ホテル、部長6名参加会費1万円。

7月22日 小山支部長、新宿支部長と懇談。

7月23日 京橋支部、工業文化展打合せ、於・支部室、小山支部長、荒川、佐藤、岩尾各実行委員、京青会、岸、武村、長田氏出席。

7月25日 文化展打合せ、於・支部室、荒川、佐藤、岩尾及京青会、岸、武村、長田各氏。

7月29日 中央区工業文化展印刷・製本分科会 於・支部室、印刷日本橋・京橋・軽印刷中央支部、製本京橋支部の各実行委員参加。

8月4日 本部総務委員会、於・印刷会館、小山支部長出席。

8月6日 編集会議、於・支部室

8月7日 本部支部長会、於・印刷会館

1、報告事項

- ・コンパルト製品発表会、7/25、450名参加
- ・有機溶剤作業主任者講習会、7/23、24両日106名参加。
- ・有機溶剤取扱の注意事項パネル申込み230枚

2、本部連絡事項

- ・新加入組員懇親会、8/28、京橋会館
- ・特別組員制度について
- ・東京都中小企業労務集団統一調査660社、東政連役員の推薦について
- ・三役1名佐野、常務理事5名山、小川、降旗、新津、若林、支部長5名
- ・都庁への陳情について
- ・各支部は各区役所への陳情状況
- ・第1次火災共済加入増強運動について
  - ・重点支部、京橋、文京支部
  - ・重点支部の支部長連名について
  - ・印刷PR冊子の頒布について
  - ・組合統一PRについて
  - ・相談窓口について(事例)

- ・賃金の頭打ちと定年の設定について
- ・残業割増金の計算について
- ・残業割増金の基礎に住宅手当を含めない件について
- ・定年退職者の継続雇用と雇用保険関係について
- ・三六協定の記載方法について
- ・有機溶剤の設置場所掲示について等
- ・日印産連資料配付(機関誌)

東印工組理事・監事・各支部宛送付

2、支部提案事項

- ・有機溶剤に関する監督について(新宿)
- ・労基法の急激な改正運動(浅草)
- ・総会実態調査票の隔年提出を(杉並)
- ・事業者台帳の記入について(足立)
- ・営業士認定講習の通信教育を(墨東)
- ・組員名簿のFAX番号の記載を(墨東)

8月7日 大日本インキと文化展出品の交渉、於・高千穂印刷、小山支部長、荒川委員。

8月8日 中央区工業文化展実行委員会、於・中央区役所、各実行委員出席。

8月19日 小山支部長、中央区役所へ陳情、横関区長、都議会議長を訪問して、特2地域緩和等の陳情文を渡し説明する。

8月27日 中央区工業文化展印刷・製本分科会、於・支部室、各支部実行委員参加。

8月28日 新加入組員歓迎会、於・京橋会館 田島副支部長、近藤地区長出席

## 支部員の異動

脱退組合員（60年10月以降）

- ・(有)安靖社印刷所(湊地区)、上原靖一氏
- ・高橋美術印刷(株)(京橋地区)、高橋輝治氏
- ・黒川印刷(湊地区)、黒川孫太郎氏
- ・(有)石橋印刷(八丁堀地区)、石橋義孝氏
- ・小島印刷(株)(新川地区)、小島正義氏
- ・(株)宣明社(八丁堀地区)、半田鉄雄氏

## 住所移転

- ・銀座地区、丹祥堂印刷(株)の住所が江東区深川2-2-3、電話630-6331になりました。
- ・京橋地区、日英舎印刷(株)の住所が江東区東陽3-3-11、電話646-6406になりました。
- ・入船地区、(有)新明印刷の住所が江東区木場2-3-2、電話630-0755になりました。
- ・月島地区、本橋印刷所の住所が江東区牡丹3-18-8、電話630-6323となりました。

## お悔み申し上げます

- ▼湊地区、(株)三和印刷社長長御令蘭、市川房江殿が御逝去されました。
- ▼新川地区、(株)大竹印刷所社長御母堂、大竹はま殿が御逝去されました。
- ▼入船地区、三秀印刷工業(有)社長御母堂、小林トメ殿が御逝去されました。
- ▼新川地区、(有)一星社印刷所社長御尊父石川忠由殿が御逝去されました。
- ▼京橋地区(株)モリイチ会長森元雄殿が御逝去されました。

## 「中央区工団連宿泊研修旅行記」

於・鬼怒川観光ホテル別館

6月14日(日)、15日(月)の両日、中央区工団連主催の宿泊研修旅行が開催されました。梅雨入り前の好天に恵まれて、大型バス3台の内、京橋支部は1台、40名程も参加、鬼怒川温泉上流の龍王峡の緑したたる渓谷と溪流の美しさにひとときのやすらぎを楽しみ、都会をはなれてひんやりとした新鮮な空気にひたりました。鬼怒川温泉では観光ホテル別館に到着して、すぐ大会議室で栃木県の産業について、経営近代化センター代表理事、中小企業診断士、鈴木友吉氏の講演を1時間聴講の後、6時からの宴会では120名の方が揃って、宝田会長の挨拶の後、乾杯して従業員の方々も日頃の仕事を忘れてそれぞれくつろぎ、カラオケ大会では出場者が多くて夜遅く迄にぎやかな唄が聞こえていました。翌日は、8時半に宿をたつて久保田鉄工(株)宇都宮工場に10時半到着、早速会議室で会社概要の説明を聞いて3班に別れて案内嬢の女子社員に連れられて、約一万八千坪もの工場を天井近くに設けられた見学通路に従って、上から下の組立作業等を興味深く見学して約一時間後、再び会議室に戻り、質問等の熱心な応答で予定時間をこえる程でした。同社では国内用、輸出用の田植機やコンバインの生産をしていますが、同一ライン上で別機種を生産も一緒に行っている事が注目されました。工業団地内とはいえ、

約6万坪の敷地で従業員の駐車場やグラウンド等が整備されており、又工場内の交通安全には気を配っており、横断歩道での車の停止等徹底しているようでした。一行は同工場を出て一路大谷観音に向い、一時頃到着、案内人につれられて観音様を拝観の後、昼食、そして東北道へへて帰路につき、予定時間の5時前に中央区役所へ無事到着となりました。(岩本)

## 編集後記

▼表紙の評判が良いのでしばらく続けることにしました。本号は秋にちなんで「野菊」を選ばせてもらいました。最近では都市化が進んで野菊を見ることさえむずかしくなりましたが一つ表紙から匂いを感じとって下さい。なを作者の遣作展が十一月十八日から二十三日まで銀座のセントラル絵画館で開催されますのでお好きな方はどうぞご覧下さい。

▼本号で創刊以来六十五号となりました。本支部報は「支部員のための 支部員の手による 支部員の支部報」を編集方針として編集して参りました。そこでよりみなさんに近づけるために原稿の募集を始めました。偶然にも湊地区長の中山さんから「作業交流欄を」という投稿を戴きました。ありがとうございました。支部員のための支部報ですから是非ご自分のものとしてご活用戴けたらと編集子一同思っています。

(近藤記)